



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	研究室報
Citation	独語独文学科研究年報, 25, 65-67
Issue Date	1998-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/26093
Type	other
File Information	25_P65-67.pdf



研 究 室 報

講義題目（1998年度）

独語学概論（1）	現代ドイツ語の諸相	植木 迪子
独語学概論（2）	中世ドイツ語の初歩	清水 誠
独文学史概説（1）	言語批判の系譜	山田 貞三
独文学史概説（2）		石原 次郎
独語学Ⅰ	ドイツ語学の基本（1）	植木 迪子
独語学Ⅰ	ドイツ語学の基本（2）	植木 迪子
独文学Ⅰ	19世紀から20世紀前半にかけてのドイツ語圏文学の散文（1）	鈴木 純一
独文学Ⅰ	19世紀から20世紀前半にかけてのドイツ語圏文学の散文（2）	鈴木 純一
独文学Ⅰ	Die Suche — ein Krimi（1）	Martin Moser
独文学Ⅰ		Birgit Fuchs
独文学Ⅰ	マラーノ文化の諸相	小岸 昭
独語学Ⅱ	Landeskunde — Studentenleben in Deutschland	Annedore Hänel
独語学Ⅱ	Landeskunde — Feste und Bräuche in Deutschland	Annedore Hänel
独語学Ⅱ	社会言語学的観点から見たドイツ語の諸問題	Ulrich Ammon
独文学Ⅱ	文学における言語批判の問題（1）	山田 貞三
独文学Ⅱ	文学における言語批判の問題（2）	山田 貞三
独語学基礎演習	Grundkurs Deutsch（1）	Annedore Hänel
独語学基礎演習	Grundkurs Deutsch（2）	Annedore Hänel
独文学基礎演習	文学・文化論テキストの基礎読解（1）	山田 貞三
独文学基礎演習	文学・文化論テキストの基礎読解（2）	山田 貞三
独語学演習	Sprech- und Lesekurs Deutsch（1）	Annedore Hänel
独語学演習	Sprech- und Lesekurs Deutsch（2）	Annedore Hänel
独語学演習	ドイツ語と北欧語（1）	清水 誠
独語学演習	ドイツ語と北欧語（2）	清水 誠
独文学演習	文学をどうとらえるか（1）	石原 次郎
独文学演習	文学をどうとらえるか（2）	石原 次郎
独語学演習	ドイツ語の標準変種（1）	植木 迪子
独語学演習	ドイツ語の標準変種（2）	植木 迪子
独語学演習	ドイツ語学の諸問題（1）	清水 誠
独語学演習	ドイツ語学の諸問題（2）	清水 誠
独語学演習	Aspekt der Kindheit und Jugend	Annedore Hänel
独語学演習	Aspekt des Unterrichtens von Deutsch als Fremdsprache	Annedore Hänel
独文学演習	現代の文学理論（1）	山田 貞三
独文学演習	現代の文学理論（2）	山田 貞三
独文学演習	Hohendahl : Literatur und Öffentlichkeit（1）	石原 次郎
独文学演習	Hohendahl : Literatur und Öffentlichkeit（2）	石原 次郎

研究室行事記録

◎ 1998年2月20日に北海道大学文学部202号室において1997年度卒業論文発表会が開かれた。

<留学関係>

◎ 1998年8月、阿部和夫氏がミュンヘン大学から留学を終え帰国した。

☆ 1998年6月13日に年報の総会が行なわれ、会長選出、幹事選出等が行われた。

1997年度 論文題目

卒業論文

勢 旗 敦 : ノルウェー語の動詞におけるS型動詞について - ドイツ語との比較

丹 菊 芳 邦 : 「若きウェルターの悩み」について

中 村 隆 二 : 口語ドイツ語における単語内・単語間の音変化

二 宮 輝今日 : アルベルト・シュヴァイツァーのゲーテ観

小 柳 みのり : ドイツ語における造語と品詞転換の関係

藤 家 秀 一 : 「魔の木」におけるP. スローターダイクの現代性

古御堂 由 香 : クリスタ・ヴォルフ「残るものは何か？」を読む

安 井 未 央 : 会話における推意

北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語学・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため、下記の事業を行なう。
 - 1) 機関紙「独語独文学科研究年報」を毎年1回発行する。
 - 2) 合評会、研究会、講演会等を随時行なう。
4. 本会員は北海道大学文学部独語・独文学研究室の教官・院生（学生も含む）ならびにその趣旨に賛同するものによって構成される。

本会員は上の活動の遂行のため所定の会費を払う。

本会は1名の会長と若干名の幹事をおく。幹事は会計および編集委員を兼任する。

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わる。

本会の事務所は北海道大学文学部独語独文学研究室におく。

本会に賛助会員をおく。

☆ 執筆原稿規定

ページ数 : 13ページ程度。

1ページの文字数・行数は任意。ただし35行程度が望ましい。

原稿の大きさ : A4

論文題目 : 原稿1ページ目の最上段、中央に、太字・ゴシックで多少大きめに記載する。

二行にわたっても構わない。

注釈・文献 : 注釈は奥付けとする。

参考文献については、注釈内に記載することが望ましい。

執筆者氏名 : 原稿1ページ目の3行目（題目との間に1行開けること）、右端に記載する。

身分の明記 : 原稿末に丸括弧つきで、右寄りで身分を明記する。

締め切り : 10月31日

会 員 名 簿

※青 柳 謙 二	○阿 部 和 夫	石 川 克 知	石 橋 道 大
石 原 次 郎	伊 藤 祐 紀 子	岩 井 洋	岩 田 聡
◎植 木 迪 子	白 瀨 幸 子	梅 津 真	江 口 豊
大 沼 良 江	岡 田 麻 子	小 川 了	荻 原 達 夫
小 澤 幸 夫	加 藤 寛 藏	川 島 淳 夫	川 東 雅 樹
岸 川 良 藏	佐 藤 修 子	佐 藤 俊 一	塩 谷 幸 子
清 水 誠	神 久 聡	鈴 木 将 史	○瀬 野 晶 子
高 橋 修	高 橋 吉 文	田 中 智 美	田 中 剛
対 馬 晃	寺 田 龍 男	中 川 勝 昭	中 祢 勝 美
名 執 純 子	名 執 基 樹	西 川 智 之	林 馨 子
藤 本 純 子	○前 原 真 吾	三 浦 國 泰	最 上 英 明
森 田 一 平	山 田 恵 子	山 田 貞 三	山 田 善 久

◎は会長

○は幹事

※は賛助会員

独語独文学科研究年報 第25号

(Nenpo. Jahresbericht des Germanistischen Seminars der Hokkaido Universität)

1998年12月発行

発行者	北海道大学ドイツ語学・文学研究会
編集委員	阿部 和夫 瀬野 晶子 前原 真吾
連絡先	北海道大学文学部独語独文学研究室内 〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目
印刷所	北大印刷